

## Drug Information

製品名	アクアフェン®		製造販売元	MSDアニマルヘルス株式会社						
本質の説明 又は製造方法	本剤は、米国ジェリング・ブラウ社が武田薬品と共同開発した合成抗菌剤フロルフェニコール2.5%製剤で、広範囲の魚病細菌に対して強い抗菌活性を有する。特にすずき目魚類の類結節症および連鎖球菌症（腸球菌症）並びにうなぎ目魚類のパラコ病の起病因菌に強い抗菌力を有し、臨床的に優れた投薬効果を示す。		成分及び分量	<table border="1"> <tr> <td>品名</td> <td>アクアフェン®</td> </tr> <tr> <td>有効成分</td> <td>フロルフェニコール</td> </tr> <tr> <td>含量</td> <td>本品1g中にフロルフェニコール25mgを含有する。</td> </tr> </table>	品名	アクアフェン®	有効成分	フロルフェニコール	含量	本品1g中にフロルフェニコール25mgを含有する。
品名	アクアフェン®									
有効成分	フロルフェニコール									
含量	本品1g中にフロルフェニコール25mgを含有する。									
特長	<ul style="list-style-type: none"> <li>○すずき目魚類の類結節症および連鎖球菌症、うなぎ目魚類のパラコ病の起病因菌をはじめ、広範囲の魚病細菌に対して強い抗菌活性を有する。</li> <li>○野外から分離された合成ペニシリン系薬剤およびピリドンカルボン酸系薬剤耐性バクテラ・ピシンダ、マクロライド系薬剤およびテトラサイクリン系薬剤耐性ストレプトコッカスならびにオキシテトラサイクリン、オキノロン酸などのピリドンカルボン酸系薬剤、サルファ剤およびクロラムフェニコール系薬剤耐性エドワジエラ・タルダにも強い抗菌力を有する。</li> <li>○経口投与後、速やかに吸収され、血液をはじめ組織各部に高濃度で広く分布する。</li> <li>○数多くの実験感染、臨床試験および使用経験を通じて、類結節症およびパラコ病に対して非常に優れた投与効果を有することが確認されている。</li> <li>○連鎖球菌症に対しても優れた投与効果を示し、その被害が問題になっている類結節症との混合感染時に極めて有効な薬剤である。</li> <li>○休薬後の組織からの消失が速やかである。</li> <li>○水中での分解が速やかで、環境汚染あるいは養殖池中での蓄積の可能性が少ない薬剤である。</li> <li>○粉立ちが少なく扱いやすい製剤である。</li> </ul>									
効能又は効果	下記疾病魚類の死亡率の低下 すずき目魚類：類結節症、連鎖球菌症、うなぎ目魚類：パラコ病									
用法及び用量	魚体重1kg当たり1日量フロルフェニコールとして下記量を、5日間投与する。 すずき目魚類：類結節症、連鎖球菌症 うなぎ目魚類：パラコ病									
使用上の注意	<p>基本事項</p> <p>1.守らなければならないこと</p> <p>【一般的注意】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>•本剤は、すずき目魚類の類結節症、連鎖球菌症及びうなぎ目魚類のパラコ病を治療するために使用し、すずき目魚類若しくはうなぎ目魚類以外の魚又は動物に使用しないこと。</li> <li>•本剤は、必要量以上使用してもその治療効果は変わらないことから、本使用説明書の用法及び用量に従って正しく使用すること。</li> <li>•本使用説明書の用法及び用量に定められている期間使用した後は、治療の効果の有無にかかわらず、本剤の使用を中止し、繰り返し使用しないこと。</li> <li>•本剤は、病気の治療に必要な最小限の期間の使用に止めることとし、病気が治まった後は使用しないこと。</li> <li>•本剤は指導機関（家畜保健衛生所、魚病診断総合センター、水産試験場等）に相談の上使用すること。</li> <li>•本剤は、「使用基準」の定めるところにより使用すること。</li> </ul> <p>【取り扱い及び廃棄のための注意】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>•小児の手の届かないところに保管すること。</li> <li>•直射日光、高温及び多湿を避けて保管すること。</li> <li>•開封後は速やかに使用すること。</li> <li>•誤用を避け、品質を保持するため、本剤を他の容器に入れかえないこと。</li> <li>•本剤の色に異常が認められた場合には使用しないこと。</li> <li>•よく振り混ぜてから使用すること。</li> <li>•使用済みの空容器等は地方公共団体の条例等に従い適切に処分し、他に流用又は転用しないこと。</li> <li>•本剤を廃棄する際は、環境や水系を汚染しないように注意し、地方公共団体条例等に従い処分すること。</li> </ul> <p>2.使用に際して気を付けること</p> <p>【使用者に対する注意】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>•誤って本剤を飲み込んだ場合は、直ちに医師の診察を受けること。</li> <li>•作業時には、防護メガネ、マスク、手袋等の防護具を着用し、眼、鼻、口等に入らないよう注意すること。</li> </ul> <p>注意：本剤は、医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律第83条の4の規定に基づき上記の用法及び用量を含めて使用者が遵守すべき基準が定められた動物用医薬品ですので、すずき目魚類、うなぎ目魚類について上記の用法及び用量並びに次の使用禁止期間を遵守してください。</p> <p>すずき目魚類：食用に供するために水揚げする前5日間 うなぎ目魚類：食用に供するために水揚げする前7日間</p>									
貯法	室温保存、気密容器									
包装	5kg (500g×10分包)									

獣医師、薬剤師等の医薬関係者は、本剤による副作用などによると疑われる疾病、障害若しくは死亡の発生又は本剤の使用によるものと疑われる感染症の発生に関する事項を知った場合において、保健衛生上の危害の発生又は拡大を防止するために必要があると認めるときは、下記【製造販売元】に連絡するとともに、農林水産省動物医薬品検査所 (<http://www.maff.go.jp/nval/iyakutou/fukusayo.sousa/index.html>) にも報告をお願いします。

## 水産用フロルフェニコール製剤

## アクアフェン®

広範囲の魚病細菌に  
強い抗菌力を  
示します。

吸収がよく、血液をはじめ  
各組織に広く高濃度で  
分布します。

各組織からの消失が  
速やかで、使用禁止期間が  
短い薬剤です。

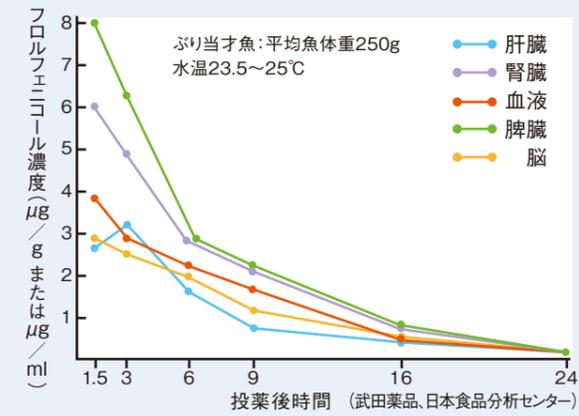
# アクアフェン®の特徴

フロルフェニコールを2.5%含有する水産用の抗菌剤です。  
 類結節症、パラコロボの起因菌をはじめ、広範囲の魚病細菌に対して強い抗菌活性を有します。  
 連鎖球菌症の起因菌に対しても優れた投与効果を示し、  
 類結節症との混合感染時に極めて有効な薬剤です。  
 吸収がよく、血液をはじめ各組織に広く高濃度で分布します。  
 休薬後の各組織からの消失が速やかで、使用禁止期間が短い薬剤です。  
 (ぶり;5日間、うなぎ;7日間)  
 水中での分解が速やかで、環境汚染あるいは養殖池中での蓄積の可能性が少ない薬剤です。

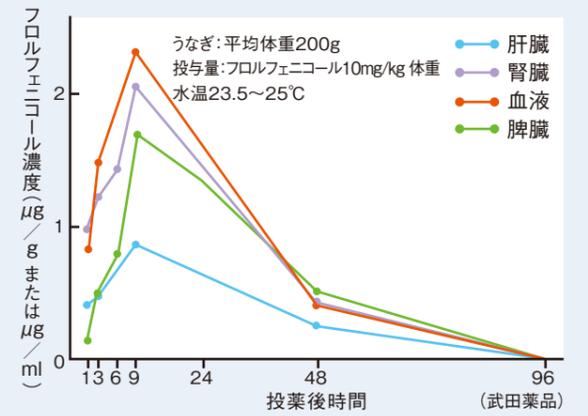
# フロルフェニコールの吸収・排泄

経口投与されたフロルフェニコールは速やかに吸収され、血液をはじめ組織各部(とくに脾臓、腎臓)に広く高濃度で分布します。

ぶりでの吸収・排泄



うなぎでの吸収・排泄



# フロルフェニコールの抗菌活性

## 各種魚病菌に対する抗菌活性

フロルフェニコールは、ぶりの類結節症、連鎖球菌症原因菌をはじめ広く魚病細菌に強い抗菌活性を示します。またチアンフェニコール、クロラムフェニコール耐性株にも強い抗菌力を示します。

### 魚病菌に対する抗菌力

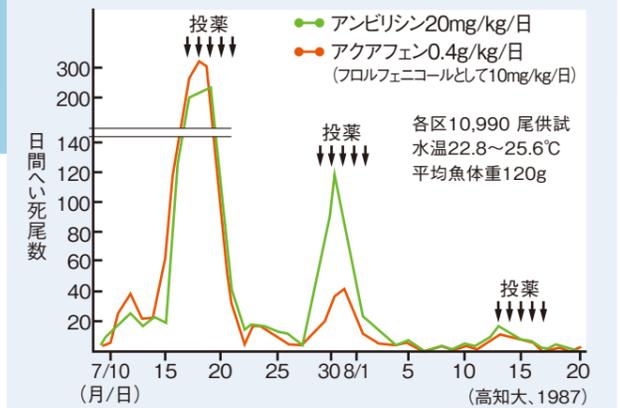
分類	菌株	MIC (μg/ml)		
		フロルフェニコール	チアンフェニコール	クロラムフェニコール
ハマチ類結節症	バスタレラ ビシシダ TF-53	0.4	1.6	0.4
	SP-3071	0.4	>100	12.5
ハマチ連鎖球菌症	ストレプトコッカス的一种 TS-L	3.1	12.5	3.1
	TS-N	3.1	12.5	3.1
ハマチブピリオ病	ビブリオアングイラルム NA-8101	0.8	3.1	0.8
	PT-80102	0.4	>100	25
ウナギパラコロボ	エドワジェラ タルダ K-3	0.8	6.3	0.8
	ET-80047	0.8	100	50
ウナギひれ赤病	エロモナス ハイドロフィラ Y-62	0.4	1.6	0.4
	Pd-306	0.4	1.6	0.4
マスせっそう症	エロモナス サルモニシダ ATCC14174	0.4	0.8	0.4
	MK-8001	0.4	6.3	1.6

(福井ら、魚病研究、1987)

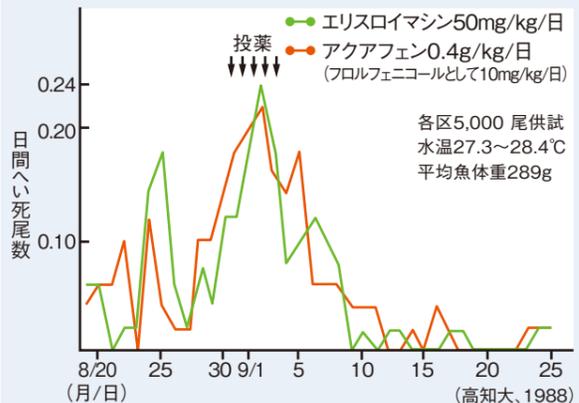
# フロルフェニコールの有効性

アクアフェン投与期間中にへい死尾数の顕著な減少がみられ、類結節症に対する効果が確認されました。

ぶりの類結節症に対する効果



ぶりの連鎖球菌症に対する効果



うなぎのパラコロボに対する効果

